



まほろん通信

VOL. 7

(平成15年1月15日発行)
(財) 福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
福島県白河市白坂字一里段86
TEL 0248-21-0700(代)
FAX 0248-21-1075
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



古代の福島を明らかにする

—官衙遺跡^{かんが}研究研修の開催—

古代の福島県は陸奥国^{むつのくに}の一部で、郡ごとに郡衙^{ぐんが}(役所)や寺院が造られました。現在これらは遺跡となっており、古代の福島県のような姿を現代に伝える重要な手がかりの一つとなっています。これらの遺跡は、県や市町村の手によって調査が行われ、その実態が少しずつ明らかにされてきています。またその研究には遺跡の発掘調査だけでなく、全国各地の研究結果との比較検討が必要です。

まほろんでは、官衙遺跡研究の第一線で活躍し、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所で平城宮の発掘調査に長年携わってこられた山中敏史先生、磐城郡衙と考えられるいわき市根岸遺跡の調査に携わり、古代の磐城郡を中心とした研究を進めておられるいわき市教育文化事業団の廣岡敏先生、福島県をはじめ古代陸奥国の実態について研究している当館の荒木隆を講師に、官衙遺跡についての研修会を開催しました。この研修には、県内の官衙遺跡の調査を進めている市町村の担当者や研究者が、16名参加しました。

研修では、講師の先生方がこれまで培ってきた経験や調査成果をもとに、官衙遺跡研究の現状と課題、調査にあたってどのような点に留意しなければならないかなど、有意義なお話をいただきました。研修生からは、今後の調査・研究に生かしたいという声が聞かれました。

原始機織りに挑戦しました

11月16日(土)は原始機(げんしばた)に挑戦しました。機織りの技術は弥生時代のころに日本に伝わったと言われています。そのころの機(はた)は、数本の棒と板に糸をかけただけの、とても簡単な作りでした。片方を柱などにしばって止め、もう片方を腰にかけて座り、織る人が機の骨組みになるというものです。構造は簡単ですが、基本的なやり方は、今の機織りとまったく変わりません。

この催しは、機織りや、原始・古代の布に興味をもったまほろんのボランティアが中心になって実施してくれました。ボランティアのみなさんは、カラムシから糸をつむいだりして、この行事に備えてくれました。

当日は、ボランティアの指導のもと、20名ほどの方が原始機に挑戦してくれました。2台の原始機を使って、代わるがわる布を織ってもらいました。人が代わると糸を張る力も変わるので、そこで横糸の詰まり方も変わります。できあがった布はけっして均一なものにはなりませんでしたが、それでも丈夫でりっぱな布



ができました。参加者のみなさんからは、「昔の人は大変だったんだね。」とか、「最初に機織りの道具を考えだした人はすごいね。」といった感想が聞かれました。

古代グルメ祭

「衣・食・住」と言われるように、食べ物は生活するうえで欠かせないものですよね。では文字による記録がなかった時代、例えば縄文時代に何を食べていたかという、実はまだよくわかっていません。縄文時代の遺跡を発掘調査すると、当時のお鍋として使われた縄文土器や肉を切ったらしい石のナイフ、動物を捕まえるための弓矢の矢じりなどはたくさん出てきます。ところが、食べ物がみつかることはめったにありません。食べ物やその残りカスは、たいいていの場合、長い年月の間に腐って土になってしまうからです。それで



＜石器でサケを解体する＞



＜縄文時代の復元炉で調理＞

もごくまれに、例えば黒コゲの炭になったりして、腐らずに縄文時代の食べ物がみつかることもあります。また、貝塚を調査すると、多くの種類の貝殻や魚、動物の骨をみつけることができます。

これらを手がかりに、「縄文時代はこんな料理を食べていたのではないか」というものを作って、試食していただいたのが、「古代グルメ祭」です。

「古代グルメ祭」は10月13日(日)に行いました。当日のメニューは次のようなものでした。

- メインディッシュ イノシシ肉とキノコのスープ
塩ザケと山芋のスープ
- 主食 縄文クッキー
- デザート 縄文風おしるこ

メインのイノシシ鍋とサケ鍋は、縄文土器で作りました。縄文土器は保温性が高く、一度沸いたらお湯が冷めにくいのが特徴です。味付けは塩だけです。日本の食卓におなじみの醤油や味噌は、縄文時代にはなかったことが知られています。

縄文クッキーは、遺跡で炭になったものが見つかります。クリやクルミ、ドングリ、トチの実などを粉にして、クッキー状にまとめたものです。コナラなどのドングリやトチは、渋くてそのままでは食べられず、灰汁で煮たり、水にさらしたりして渋抜きをします。

縄文風おしるこは、くず湯にクルミの粉を混ぜ、ハチミツで味付けしたものです。このおしるこが遺跡から出土したことはありませんが、クルミの殻は時々出てきます。クズの根からデンプンが採れることも、自然に精通していた縄文人なら当然知っていたでしょう。煙を使って蜂を麻痺させ、蜂の巣を採ることが今も行われているので、ハチミツも集めていた可能性があります。そんなことから、このメニューを作りました。

縄文時代もそれ以後の人々も、自然の中から手に入る、山菜、木の実、動物、魚など、食べることが可能なありとあらゆるものを食べていただろうと考えられます。食べ物は全て自然の中から獲得するもの、あるいは与えられるものです。ですから、そういう時代に「自然食品」なんて言葉は、もちろんありません。自然ではない食品って、なんでしょうね。

まほろん春のてんじ

テーマ 新編陸奥国風土記－巻之二石背郡－
会期 3月8日(土)～5月18日(日)
休館日 5月5日を除く月曜日と、4月30日(水)
・5月6日(火)
開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
場所 当館特別展示室
入館料 無料

まほろん春のてんじは、「新編陸奥国風土記－巻之二石背郡－」と題して、まほろんで収蔵・保管している資料のうち、古代石背郡内で確認できたもの(須賀川市・



＜空から見た山崎遺跡＞

シリーズ復元展示

福^{そうがん}島県古墳時代象嵌資料の復元 2

弘法山古墳群をはじめとする県内古墳時代象嵌資料の復元品製作は、まず出土品のX線写真を撮影するところからはじめました。撮影は装置のある福島県立博物館で行いました。

X線写真は、みなさんが健康診断で撮影するレントゲン写真と同じものです。文化財の世界でも、出土した鉄製品をX線で撮影して、腐食の程度や元の形状、象嵌の有無を調べるのに利用されています。(そもそも鉄製品の分析にX線写真が利用されるようになったのは、埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣にある象嵌を発見したことがきっかけなのです)。

X線はたいていのものを透過しますが、物質の種類(もとになる元素)によって、透過の強さが異なります。たとえば象嵌に用いられる金属のうち鉄→銅→銀→金の順番(原子番号の順)で、X線が透過しづらくなります。鍔は密度が低く、鉄よりも透過しやすくなります。この性質によってX線の透過した量の差がフィルムに濃淡となって(少ないほど白くなります)現れるのです。異なる材質を用いる象嵌は、はっきりとしたX線写真が得られるのです。

今回復元した象嵌製品には弘法山古墳群のもののように肉眼で象嵌が見えるものと、鍔に覆われて象嵌が見え

天栄村の出土品)を一堂のもとに展示します。

時代は、縄文時代から第2次世界大戦前までと幅広く、各時代・時期ごとに選び抜いた資料で、いにしへの石背(岩瀬)郡のようすが明らかになることと思います。



＜桑名邸遺跡出土縄文土器＞

須賀川市にある遺跡では、集落跡の資料として、一斗内遺跡(縄文時代)・松ヶ作A遺跡(弥生時代)・沼平遺跡(平安時代)・関林G遺跡(現代)などがあり、各時代の土器、道具としての石器・鉄製品などがあります。

この他、古墳の資料として早稲田古墳群(古墳時代)、製鉄工場の出土品として関林H遺跡(近世)などがあります。

天栄村にある遺跡では、集落跡である桑名邸遺跡(縄文時代)や山崎遺跡(古墳時代～平安時代)などがあります。

各時代・各時期ごとに、当時の石背(岩瀬)地方の特色が盛りだくさんありますので、ぜひご覧ください。

象嵌の엑스線写真



弘法山古墳群

ないものがありました。撮影の目的は、すべての象嵌の部分が現れているのかどうか、見えていないものはどんな象嵌なのかを判断するためでした。このため斜めや横方向など様々な角度で撮影しました。ところが写真を見ると、複雑な象嵌の線が見えます。表と裏側の象嵌の線が重なって写ってしまうのです。文様を復元するには表裏の象嵌を区別しなければなりません。そこで様々な角度の写真を2枚ずつ撮って、それをステレオ写真の原理で立体視して表と裏の文様を区別したのです。復元作業の陰にはこんな苦労があったのです。

復元を担当した方々は、道具を使わずに立体視するという特技を身に付けたそうです。

研修課より

ストーンサークルのナゾを解く

ー専門考古学講座「東北地方ストーンサークルの系譜」開催ー
「ストーンサークル」とは、石を環状に並べた縄文時代の遺跡で、環状列石(かんじょうれっせき)ともいいます。東北地方の北部を中心に分布する遺跡で、大きなものでは直径50mを測るものも見つかっています。県内では、船引町の前田遺跡がその候補として知られ、県の史跡に指定されています。何を目的に造られたかは永らく謎とされてきましたが、近年の研究により墓域であることが有力視されています。

まほろんではさる10月12日、ストーンサークルの調査研究に数多く携わってこられた盛岡大学の熊谷常正先生を講師にお招きして、専門的な知識に基づいた講義をしていただきました。行政のなかで埋蔵文化財にたずさわる職員や教職員など、県内から14名が研修に参加し、

日本におけるストーンサークル研究の流れや、その他の配石遺構との関連など、最新の研究成果についての講義を受けました。



<講義のようす>

総務管理課より

まほろんの謎(なぞ)①

ープロムナードギャラリー編ー

みなさん！まほろんに来ると「ん！？これはなんだろう？なぜだろう？」と思うことはありませんか？

今回はまほろんで最初に目に付くクルクル回っている縄文土器についてです。まほろんにはたくさんの縄文土器があるのになぜこの土器たちが展示してあるのでしょうか？まほろん探検隊が秘密を探ってみました。隊員：博士、なぜこの土器が飾ってあるの？

博士：この縄文土器の形がきれいだからだよ。

隊員：形がきれいってどういうことなの？

博士：模様が細かくて、豪華でダイナミックだよ。よく見ると渦巻きの模様がついているよ。発掘で出てくる土器のほとんどは小さなカケラで形にならないんだけど、この土器は形になっているよね。

隊員：縄文人は土器を何に使ったの？

博士：料理の煮炊きに使っていたんだよ。今でいう「鍋」だね。土器の中に焦げた痕があるだろう？ところで隣



<土器をみてる>

に飾ってある大きい土器は何に使っていたと思う？まほろんで一番大きい土器なんだけど、これは鍋ではなく、亡くなった人の「お棺」だと考えてるんだ。下に穴があいているから見てごらん。

縄文人は土器の中に色々なものを入れていたんだね。もしかするとみんなの使っている「鍋」が今から何千年後にまほろんでクルクル回っているかもしれないよ！

まほろんからのお知らせ

おでかけまほろんについて

3月中に来年度実施する「おでかけまほろん」の前期分の募集を行う予定です。

各学校に配布される案内や当館のホームページをご覧ください。



ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日 (月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)

入館料 無料 (体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります)。

その他 団体 (20名以上) でご利用の場合は、事前にご予約ください。

期 日	講演会・実技講座・メニュー	内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費
1月25日(土)	まほろん文化財講座	「中・近世のおはなし」	先着順	60名	どなたでも	無料
2月22日(土)	まほろん文化財講座	「木製品のおはなし」	先着順	60名		無料
3月15日(土)	まほろん文化財講座	「弥生時代のおはなし」	先着順	60名		無料
3月15日(土)	竹笛づくり	竹で横笛を作ります	2月28日	20名	小学生以上	50円